

江戸時代の面影と近代建築

大正期の中之島かいわい

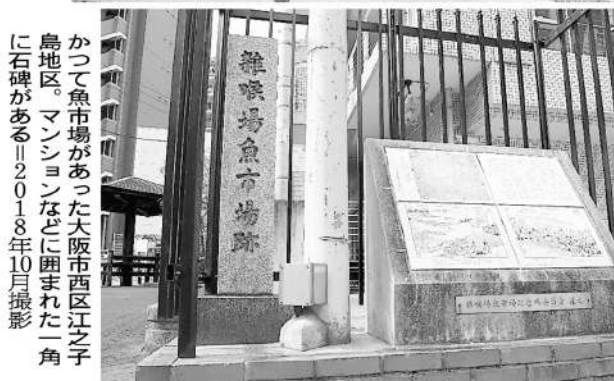
父が残した大正から昭和戦前期の写真約1千枚をデジタル化した、千葉県流山市の山尾信義さん(77)。その大正末期の写真の中に、江戸時代の風情が残る大阪の貴重な風景が残されていた。



大阪市西区にあった「雑喉場魚市場」付近の様子。1923〜25年ごろ撮影

ニッポン 写真遺産

思い出まるごと
スキャン



かつて魚市場があった大阪市西区江之子島地区。マンションなどに囲まれた一角に石碑がある。2018年10月撮影



川の向こうにかすんで見える大阪朝日新聞の社屋。1923〜25年ごろに撮影



土佐堀川に架かる筑前橋から眺めた現在の中之島。中央の高層ビル(中之島フェスティバルタワー・ウエスト)の場所に、大阪朝日新聞社の社屋が建っていた。現在の朝日新聞大阪本社は、その右奥の中之島フェスティバルタワーに入っている。2018年10月撮影

カメラ愛好家だった父の鶴雄さんは、山尾さんが小学校に入学した直後の1948(昭和23)年に58歳で他界。山尾さんは30代半ばごろから、父の人生に思いをはせながら、残された写真を整理してきた。

中でも目を引くのが、かつて大阪市西区にあった「雑喉場魚市場」かいわいの様子を写した一枚だ。

ビジネスの中心地・中之島からもほど近く、現在はマンションなどが立ち並んでいる江之子島地区。ここに31(昭和6)年まで魚市場があった。この写真から

「天下の台所」と言われた江戸時代の面影を感じられる。

一方で、対照的な近代建築も。川の向こうにぼんやりかすんで見えるのは、中之島の大阪朝日新聞の社屋だ。

この建物は16(大正5)年に完成。当時はまだ珍しかった鉄筋コンクリート造り4階建てで、時計台もあった社屋は大阪のランドマーク的存在だったという。写真は、現在の朝日新聞大阪本社が入っている中之島フェスティバルタワーの南西方向、土佐堀川に架かる

筑前橋の方向から撮られたものと考えられる。

いずれの写真も、23〜25年の大正末期に撮られた。この時期、勤務先の乳業会社の転勤発令を受け、大阪で暮らしていた鶴雄さん。実は、朝日新聞が主催する写真コンテストにも入賞していた。23年8月5日と24年4月11日の大阪朝日新聞紙面に、入賞者として鶴雄さんの名前が掲載されていた。この紙面のコピーを手にした山尾さんは「父の残した資料とともに大切に保存したい」と喜んでいった。

(樋口慶)

◇
朝日新聞社のアルバム・古写真デジタル化サービス「ニッポン写真遺産」に寄せられた印象深い写真を随時ご紹介いたします。同サービスへの問い合わせ・資料請求は、06・7878・6588(平日午前10時〜午後5時)へ。